



カンタベリー日本語補習校 運営だより

第 18 号

平成 24 年 6 月 16 日

発行：カンタベリー日本語補習校運営理事会

文責：運営理事長 松崎一広

先週は珍しく初冬の大雪となりました。学校や銀行が休みとなり、一部では停電もありました。この冬の間、週一度しかない補習校の開校日に大雪が降らないことを願うばかりです。さて、新年度がスタートし1学期も半ばを過ぎました。お子さんは新しい教科書や先生になじんで、元気に通学されていますか。補習校に通うために犠牲にしなければならないこともあります。それに余りある果実をお子さんに受け取って欲しいと思います。運営理事会も過半数のメンバーが入れ替わり、気持ちを新たに運営に取り組んでおります。

<運営理事会開催記録>

5月11日（H24年度第2回）の主な内容

- 1) 年次報告会の準備について
 - ・事業、教育、決算等の報告事項の点検と確認。
- 2) 事務室の拡張について
 - ・拡張の必要性を認め、拡張する方向で合意。
 - ・アイラムスクールに正式に打診する。
 - ・10㎡まではビルディングコンセント不要。
 - ・費用は内部留保を取り崩して補正予算を組む。
- 3) 派遣教員研究協議会への参加について
 - ・10月に米国コロンバスで開催される研究協議会へ出張について承認。（参加は校長一任）
- 4) 補習校規則改正について
 - ・改正案を検討、確認。
- 5) 新理事の選任について
 - ・東山英樹（日本人会副会長）の運営理事就任を承認し、副理事長に選任する。

<年次報告会について(報告)>

去る5月19日、アイラムスクールホールで平成24年度年次報告会が開催されました。30人強のご出席をいただき、約2時間にわたって、運営、教育、決算、予算などについての報告と質疑応答、保護者委員会の報告などを行いました。お忙しい中、長時間にわたりご出席くださった方、お疲れさまでした。報告会の配布資料は、補習校ウェブサイト www.cjssnz.org でご覧いただけます。（経費と資源節約のため、出席されなかった

方への印刷配布はいたしませんのでご了承ください。年次報告会での質疑応答や運営理事会からの補足事項の要旨は以下のとおりです。

<年次報告会での理事長挨拶(抜粋)>

本日はお忙しい中、カンタベリー日本語補習校年次報告会にお集りいただきありがとうございます。また、日頃より補習校のためにご協力をいただいておりますことを、重ねてお礼申し上げます。（中略）

開校当時57人だった児童生徒数は、今は幼稚園も加えると200人以上になりました。教える内容も増え、子どもたち学力も向上してきています。その一方で、補習校に通う目的や、ご家庭の状況、保護者の意識などが多様化しています。こうした多様性を尊重しつつ、補習校として一定のまとまりを維持していくことが大切だと思います。（中略）

補習校の「補」は、補うという意味ですから、そもそも足りないこと、不十分なことがその前提にあります。学習時間のみならず、資金その他の不十分さを抱えるのは補習校の宿命といえます。運営理事会も限られた時間と労力の中で仕事をしておりますので、なかなか万全、完璧といかない部分もあります。そのような様々な不十分さとどう折り合いをつけるか、ということも心の片隅に置かれて、この年次報告をお聞きいただければと思います。

<運営に関する報告について>

- ・運営方針の「大きな合意を形成する」は、具体的には7割程度を目安とする。付言すれば、補習校への満足度も70%程度を一つの目安と考える。
- ・理事会と保護者、理事会と教職員とのコミュニケーションを増進し、組織の風通しを良くしたい。
- ・授業料の急激な値上げを避けつつ、財源と経営の安定化を図る。

<教育に関する報告について>

- ・国際結婚世帯が6割以上のため、家庭内で日本語を話す機会が少なく、また授業時間が極端に少ないため国語力に差が大きい。
- ・子供も保護者も何のために通っているのか、また通わせているのか、しっかりと目的意識を持つ。
- ・ダブル（日本とニュージーランド）に子供たちの個性や特色を発揮できるよう働きかける。

＜問＞将来の帰国が明確でない子が少なくないにもかかわらず、帰国対応に照準をあわせて教育を行うのは実態に即さないのではないか？

＜答＞日本で通用する力をつけられれば、日本に帰国しない場合でも、当地でニュージーランドと日本の懸け橋となったり、日本人コミュニティの中核的役割を担う人材となることが期待できる。したがって、「いつかの帰国に備える」ことは、帰国の有無にかかわらず、共通の目標たりえる。

＜問＞教員研修の内容はどのようなものか？

＜答＞毎回先生方の要望を基にテーマを決め、各自事前にレポートを作成し、発表し合い、協議し、校長が指導助言を行う。1回目（5月）のテーマは新学年始めの学級経営、参観・懇談の準備など、2回目（6月）は作文指導。今後は音読指導なども予定している。教員全員が事務所に入りきれないので、1～4年担任8人と5・6年中学部担任5人と2グループに分けて研修している。

＜問＞国語学習の時間が足りないと説明があったが、「活動」の時間を充てる考えはないのか？

＜答＞活動の時間は去年取り入れたばかりなので、もう少し様子を見てから評価して扱いを決めたい。その一方で、選択教科である算数/数学・社会の扱いについて再検討したい。

＜会計に関する報告について＞

・研修手当、主任手当は昨年後に新設。研修手当は出席を義務づけることへの最低限の対価であり、主任手当はその責任と役割に伴って増えた仕事量を考慮した小額の手当である。

・校長裁量費と出張費も新設であるが、昨年度は出張が実行されなかったため、予算が未執行となり殆どが今年度に持ち越された。

・輸入教材費計上分が予算より大幅に少なかったのは計算ドリルの使用をやめたからである。

・複写関係費が予算を上回ったのは計算ドリルの代わりにコピーを利用したからだが、計算ドリルを使用するよりも掛かる費用はおさえられている。

＜問＞雑収入、寄付金、雑費の合計があわないのはなぜか？

＜答＞表には主なものだけを計上したため。その他の項目を設けて残余を一括計上すればよかった。

＜2012年度予算について＞

・授業料・入学金の収入額が上がっているのは授業料を上げたからである。

・人件費の増加はクラス数増に伴う雇用人数の増加および勤務時間の30分延長に起因する。

・研修手当増は、昨年は教員の一部が対象除外となっていた研修を全教員対象にしたこと、および年4回から8回に回数を増やしたことによる。

・借料の増加はクラスが増えたことと、借料の値上げによる。

・輸入指導書、輸入教材費の増減は、昨年は小学部の教科書改訂があったが、今年度は中学部のみであることによる。

・KiwiSaver 賦課金増は、教員の雇用人数が増えたことによる。

＜問＞昨年保護者委員と有志が行った日本の災害救助隊残留物資の販売による募金の一部(1500ドル)は、日本人会が設置した震災義捐金となったはずだが、補習校に留まっているのはなぜか？

＜答＞日本人会と精算方法を協議していないため補習校の口座にとどまっているが、今年度中に日本人会とどのようにするか相談して処理する。

＜問＞3年前と今回の値上げ、更には黒字決算であるにもかかわらず、赤字で予算を組んでいるのはなぜか？その年々によって負担が不公平になっているのではないか。

＜答＞一度に大幅な上げを避けるために、斬新的に値上げをしている。今回については、値上げを見送ると、来年度の値上げ幅が大きくなる可能性があったため小幅な値上げを実施した。公平の観点からも小幅な値上げの方が理に適う。収支は均衡することが望ましいが、クラス数が1つ増減することで1万ドル変わる。さらに、寄付や雑収入も予測の困難なものもある。その結果、これまでの実績からすると、収支が2万ドル程度まで乖離することは珍しくない。

(年次報告会の報告は以上です)

＜補習校事務室 執務時間＞

日時 火・水・金 10:00～14:00

土曜日 9:00～17:30

電話番号 (03) 348-9512

住所 66 Ilam Road, Ilam, Christchurch

郵送 P.O.Box 31141, Ilam 8444

URL <http://www.cjssnz.org/>